



# Design

～地域包括ケア病棟から地域をデザインする～

発行元：地域包括ケア病棟“彩り”・リハビリ科・地域医療連携室

地域包括ケア病棟広報誌Design号外43号です。表面は地域包括ケア病棟“彩り”専従セラピストの紹介、裏面は地域からの受け入れの報告です。（地域医療連携室 室長 南出 弦）

## 地域包括ケア病棟“彩り”専従セラピストが変更になりました。

～ よろしくお願ひします ～



棚田作業療法士（中央）

1月より、作業療法士の棚田が地域包括ケア病棟の専従セラピストになりました。当院の地域包括ケア病棟では初めて、作業療法士が専従セラピストを担当させていただきます。

\*

ここで少し「作業療法」について紹介させていただきます。作業療法の「作業」とは、生活の中にある様々な活動のことを指します。我々作業療法士は、『人は作業をすることで元気になれる』と考え、その人にとって意味のある作業を見つけ獲得を目指します。時には住環境や方法、使用する道具などを工夫しながら、一人ひとりのニーズ（要望）やゴール（目標）の実現を模索します。これらは『彩り』で求められるリハビリの役割に重なることが多く、皆さまのお役に立てることがあるのではないかと考えています。これからどうぞ、よろしくお願ひ致します。

（リハビリ科 主任 作業療法士 棚田 万理）

## 診療報酬改定について

～ 地域からの受け入れを ～

平成26年8月に地域包括ケア病棟57床を開設し、今年8月で丸6年を迎えます。日頃からご利用頂き、ありがとうございます。

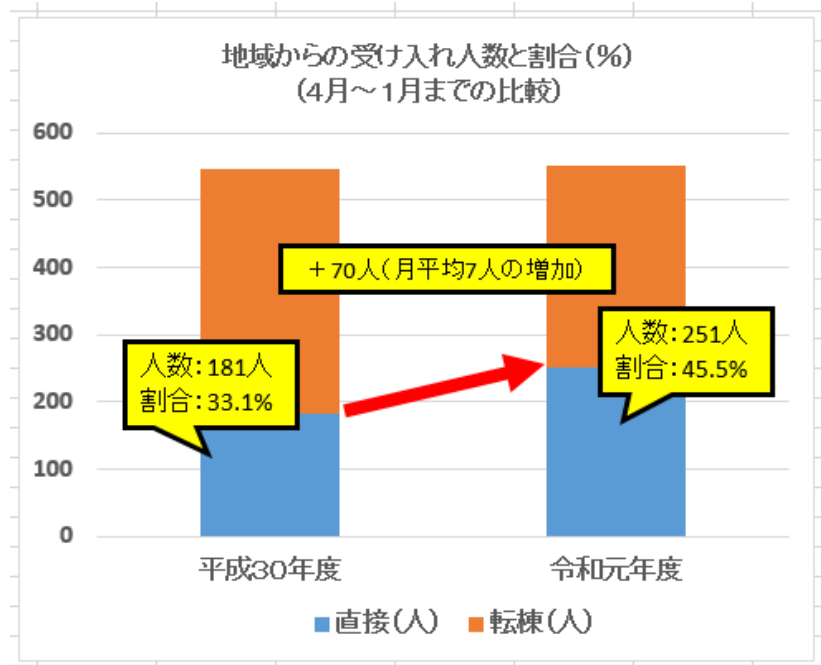
さて、今年4月の診療報酬改定では地域包括ケア病棟について、自院からの転棟がほとんどで地域包括ケア病棟本来の役割が果たせていないとの意見を踏まえ、地域包括ケア病棟を持つ400床以上の病院は、自院からの転棟受け入れの割合が60%未満とすべきとの指針が出ました。当院は400床未満（321床）ですので、自院からの転棟の割合に制限はありませんが、年々、地域からの受け入れの人数及び割合が増加していることを考えると、当院の地域包括ケア病棟の進むべき方向性は間違いなかったと思い、少しだけ安心しました（裏面参照）。

住み慣れた地域で住み続けることを目的とした“地域包括ケアシステム”の一翼を担えるよう、地域の皆様との連携を強化してまいりますので、ご意見・ご要望などがありましたらお気軽にお寄せください。（地域医療連携室 室長 南出 弦）

## 地域からの受け入れの割合について

### ～ 平成30年度と令和元年度の比較 ～

平成30年度と令和元年度の地域からの受け入れの実数と割合の比較です（4月～1月までの比較です）。引き続き、地域からの受け入れに力を入れてまいりますので、お気軽にお問い合わせください。よろしくお願いいたします。



## 地域医療連携室より

### ～ サムライ ～



先日、映画館で「侍の名のもとに ～野球日本代表 侍ジャパンの800日～」という映画を観ました。昨年の「WBS C世界野球プレミア12」で日本は10年ぶりに世界一になりましたが、映画は、2017年に稲葉監督が就任してから今回の世界一に至るまでの道のりを追ったドキュメントです。代表選手を選考する際の監督の苦悩した表情や、怪我のため代表をやむを得ず離脱することになった選手の悔しそうな表情、不甲斐ない打席を反省する選手の様子が描かれていて、あつかましくもありますが、監督や選手になった気分で観ることができました。また、選手に対して的確な指示やアドバイスを出す監督やコーチ陣、バッティングについて話し合う選手の様子などが随所に盛り込まれていて、今の自分の仕事や立場と照らし合わせ、いろいろ考えさせられました。

\*



今年は東京オリンピックが開催されます。野球のみならず、世界レベルの様々な競技が日本で観られるのを楽しみにしているのですが、映画のように、監督やコーチ、選手に秘められている様々な思いを考えながらテレビでの観戦を楽しみたいと思っています。(地域医療連携室 室長 南出 弦)